

「在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン」に関する有識者会議(第3回)
議事概要

1. 日 時

令和2年6月17日(水) 午前9時59分から午後0時12分まで

2. 場 所

ウェブ会議

3. 出席者(敬称略)

(委員) 庵委員, 岩田委員, 新居委員, 藤波委員, 水野委員, 山口委員, 山脇委員
(事務局) 出入国在留管理庁: 在留管理支援部長, 在留支援課長
文化庁: 国語課長

4. 議 事

在留支援のためのやさしい日本語ガイドライン(案)に関する意見交換

5. 発言概要

【第1章に関する意見交換】

(委員) 2ページの円グラフで1988年と2019年が対比できるようになっているが、1988年は「韓国・朝鮮」、2019年は「韓国」となっている。この部分は説明が必要なのではないか。

(委員) 2ページのグラフには、「韓国」と「朝鮮」の統計が分かれている理由についても何か説明があったほうがよい。

(委員) 3ページの「日常生活に困らない言語とした日本語の割合」は、「日本語を日常生活に困らない言語とした割合」と修正してはどうか。

(委員) やさしい日本語は入口情報を伝えるというところに役割がある。コロナに関しても、その後のきちんとした情報というのは多言語化された情報が欲しいということも聞いている。第1章の「受け手の外国人からの高いニーズ」の後に多言語化への流れを止めるわけではない旨を少し入れてほしい。

(委員) 表紙などで使われるイラストが人種のスtereotypeにならないよう留意すべき。

(委員) 3ページの国立国語研究所の調査は母語を抜いてカウントしているため、「言語サービスにおける英語指向」という論文のデータを使用した方がよい。

(委員) この会議で話し合った上で、やさしい日本語の明確な基準を示さないこととしたことを書いておいた方がよい。

(委員) 有識者会議が議論をして作ったというプロセスを知りたい人もいると思うので、QRコードなどで関連情報を見られるようにしたほうがよい。

【第2章に関する意見交換】

(委員)「,」(カンマ)と「、」(読点)が混在しているが、統一したほうがよい。

(委員)日本人にわかりやすい文章を作る際に、できるだけタイトルでわかるようにするというを入れた方がよい。

(委員)7 ページの例文については、イラストの話だけに絞ったものとするればよいのではないか。

(委員)6 ページのステップ1にもステップ2にも、「文をわかりやすくする」という同じ文言が入っている。このままでは読み手にとってわかりにくいのではないか。

(委員)「文をわかりやすくする(1)」と「文をわかりやすくする(2)」でいかがか。

(委員)9 ページの上部の吹き出しのところで「外国人「へ」配慮して」という部分があるが、ここは、「外国人「に」配慮して」に修正すべき。また、「方向を表す「へ」と「に」は「へ」に統一する」については、災害時のやさしい日本語を最初に考えたときには「へ」に統一するとしているが、方向を表す「に」と「へ」は恐らく外国人も支障なくわかってもらえると思う。このレベルでは、この部分は削除してもよいのではないか。

(委員)8 ページの例文のなかで「医療サービス」というのが何を指しているのかわかりにくい。

(委員)9 ページの「二重否定は使わない」の部分の「ごみは指定された袋に入れないと、回収してもらえないことがあります。」は、二重否定の例として適切でない。

【3章、4章及び全体を通じての意見交換】

(委員)14 ページの「在留資格の取得(出生)」のところは、ステップ2の「外国人にもわかりやすい文章」の例文がわかりにくい。「生活・仕事ガイドブック」の同じ項目の方がわかりやすいので、それを使ってみてはどうか。

(委員)15 ページの演習問題について、「チェック」のような意味がたくさんあるようなものを例とするのは適切でない。また、品詞をある程度合わせる必要もある。

(委員)3章で紹介されている3つのサイトにQRコードをつけてほしい。

(委員)今回のガイドラインは書き言葉のガイドラインであるので、例文は、書き言葉になるようなものとすべき。

(委員)14 ページには、「わかりやすい文章」の後に「(簡潔な文章にする)」と「(日本語をわかりやすくする)」との説明がついているが、第2章の6ページの部分とずれているので削除すべき。

以上